

医療ICT分野における 海外展開に向けた取組

平成25年11月11日
総務省

総務省における医療分野等のICTに向けた取組

■ EHR事業
■ 東北地域医療情報連携基盤構築事業

健康

介護

医療

1

ICT超高齢社会構想会議(H24.12より開催)

- 超高齢社会の到来に対応したICTの活用方策について議論。健康・介護・医療は重要テーマの一つ。

医療ICTに関する海外動向

- ◆ ITU-Tにおいて、M2Mに関するFGを立ち上げ、e-healthの分野を中心に議論(2012年1月より)
- ◆ ITU・WHOが非感染症疾患の予防に向け、モバイルヘルスの活用等に連携して取り組むことを発表(2012年10月)

共通診察券事業(出雲)H23-H24

- 医療機関・薬局・患者間での情報共有
- 二次医療圏を超えた情報連携
- 本事業の成果を活用する形で、県全域ネットワーク(まめネット)を構築開始

医薬連携事業(香川)H23-H24

- 処方せん情報の電子化に関する技術検証
- 電子版おくすり手帳

医療・介護連携事業(尾道)H23-H24

- 医療・介護間の情報共有
- 実証期間中に二次医療圏を超える形で参加機関が急速に拡大
- 本事業終了後も地元医療機関等を中心に継続的に運用予定

東北メディカル・メガバンク計画(宮城県、岩手県)H24-

- 被災地東北の地域医療の復興、個別化医療・予防の実現
- 医療機関等での医療情報の連携
- 災害発生時の医療情報の喪失防止

在宅医療・訪問介護連携事業(石巻・東京都内)H24

- 在宅医療・介護等の多職種間でタブレット端末を利用した情報共有

成果の活用

日本版EHR事業推進委員会

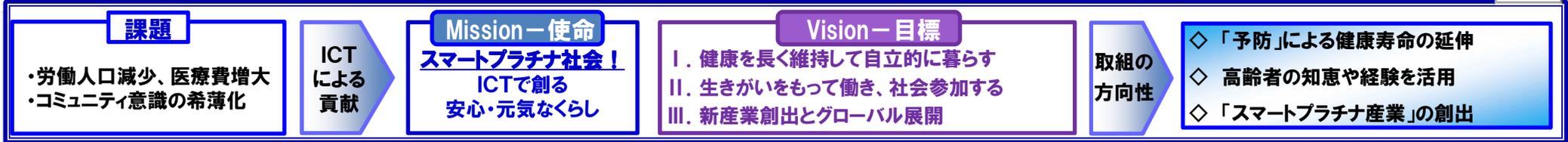
情報共有

東北地域医療ICT連絡会

連携

(※)香川、尾道については、H23年度総合特区事業としても選定

「スマートプラチナ社会」の実現



「スマートプラチナ社会」の実現



2020年に23兆円規模の新産業創出

- 医療 I C Tシステム・サービスの海外展開にあたっては、展開国の社会や制度に合わせた現地化とパッケージ化が不可欠。特に、医療 I C Tシステム・サービスは現地通信インフラの普及状況の影響を大きく受ける。
- 我が国既存の医療 I C Tシステム・サービスについて、海外展開に向けた取組（現地調査、人的ネットワーク構築、国際共同実証等）を内外で行うことにより、I C Tシステム・サービスのパッケージを組成し、M E Jを通じて各国に売り込む。
- 日 E U・I C T政策対話や日米インターネットエコノミー会合等で、超高齢社会における I C T施策の実施に係る協力体制の構築等について議論を進めている。

医療 I C Tシステム・サービスの現地化・パッケージ化、国際標準化（施策実施の仕組み）

我が国既存の医療 I C Tシステム・サービス

先進国

- ・ 我が国同様に超高齢社会を迎えた欧州等を中心に、急性期対応の医療 I C Tシステム・サービスにニーズ
例：心筋梗塞等の高リスク患者を対象に不整脈等のバイタルを遠隔監視し、異常を早期発見するシステム



新興国

- ・ 生活水準の向上と人口ボリュームゾーンの加齢を受け、大幅に増加する生活習慣病の予防・重篤化防止の医療 I C Tシステム・サービスにニーズ
例：糖尿病等の生活習慣病患者のバイタルや生活習慣を遠隔モニタリングし、健康指導を行うシステム



途上国

- ・ 未発達な医療基盤を補うための医療 I C Tシステムにニーズ
例：途上国における妊婦や胎児の医療上のリスク軽減のため、胎児の心拍を定期的に遠隔モニタリングし、異常を早期発見するシステム



Medical
Excellence
JAPAN

実施結果から
パッケージ化

M E Jを通じて海外展開
(現地導入)